

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	DM570／日本語学概論B (Introduction to the Study of Japanese B)		
担当者名 (Instructor)	有賀 千佳子(ARUGA CHIKAKO)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	ICC2130	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	基礎科目(一般)		

授業の目標(Course Objectives)

日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の特色(語彙、文字表記、語用論的規範)を理解し、説明することができるようになる。普段、無意識に使用している日本語のさまざまな部分を意識化し、日本語学習者が困難に感じる点を想像できる力を身につける。

To understand and become able to explain the characteristics of Japanese (vocabulary, writing system and pragmatics) necessary to teach the Japanese to non-native speakers. Students will pay close attention to the Japanese they speak on a daily basis and gain the ability to analyze linguistic difficulty faced by learners of Japanese.

授業の内容(Course Contents)

国語としての日本語ではなく、日本語を母語としない人々に教えるための日本語の様々な特質について言及する。「語彙」「文字表記」「語用論的規範」について、学習用教材や学習者の誤用など具体的事例を通して実際に学ぶ。

Characteristics of Japanese necessary for teaching Japanese as a foreign language, rather than as a native language, will be covered in this course. Students will learn about Japanese vocabulary, writing system and pragmatics through error analysis and study of teaching materials.

授業計画(Course Schedule)

1. 初回ガイダンス レディネスチェック
2. 日本語の文字表記(ひらがな、かたかな、漢字) わたしたちはどう使い分けているか
3. 文字表記 日本語学習者にとっての困難点/漢字圏と非漢字圏
4. 語彙とは何か/母語話者による語感の違い/日本語学習者にとっての語彙学習とは
5. 語の意味/意味分析の方法/誤用分析/類語比較分析
6. 語彙論の基礎知識—「語を分類する」ための観点①— 品詞
7. 語彙論の基礎知識—「語を分類する」ための観点②— 語構成、語種
8. 語彙論の基礎知識—「語を数える」ための方法—
9. 日本語教育における語彙の位置づけ/語彙教育の方法
10. 語彙資料について考える—辞書、コーパス、用例集、学習者用問題集—
11. 語用論とは何か—なぜ意図が伝わるのか—
12. 発話意図が伝わらない理由/非日本語母語話者が感じる困難点
13. 「表現文型」「機能シラバス」について考える
14. 学習のふりかえり 既習項目チェック

授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

予習は要りませんが、必ず復習をして、知識や考え方を自らに定着させておくこと。不定期に理解度確認クイズや小課題を行います。

成績評価方法・基準(Evaluation)

授業への参加度(50%)/不定期の授業内クイズ・課題(50%)
4分の3以上出席がない場合は単位修得不可。15分以上の遅刻3回で、欠席1回にカウントします。

テキスト(Textbooks)

テキストは使用しません。毎回資料を配布します。

参考文献(Readings)

トピック毎に、参考資料を提示します。
書籍などは、なるべく現物を手にできるようこちらで用意します。

その他(HP等)(Others(e.g. HP))

既存知識よりも、自分自身の頭で言語現象を分析する姿勢を重視します。
授業は主に講義形式で進めますが、随時、学生への問いかけ、および、ペアワークやグループワークなど学生同士のやりとりを通して学んでいくため、参加者の積極的姿勢を望みます。
14回のうち、3回(ないし2回)は、オンラインにて実施します。
実施回については、対面授業時、および、立教時間にてアナウンスします。

注意事項 (Notice)